

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	57人	算数	57人	理科	57人
第5学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

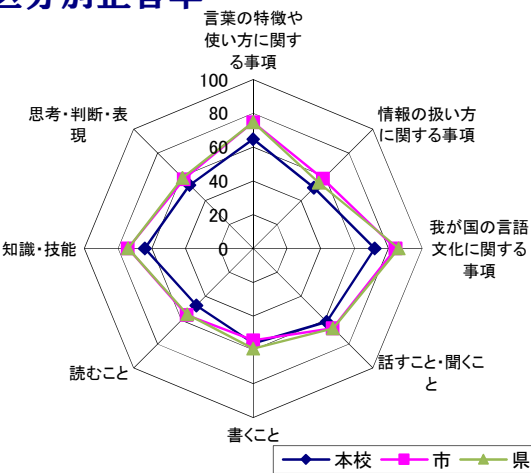
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.7	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	50.9	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	71.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	61.4	66.7	66.9
	書くこと	56.1	54.3	59.3
	読むこと	47.6	55.6	55.2
観点	知識・技能	64.1	74.1	74.0
	思考・判断・表現	53.2	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

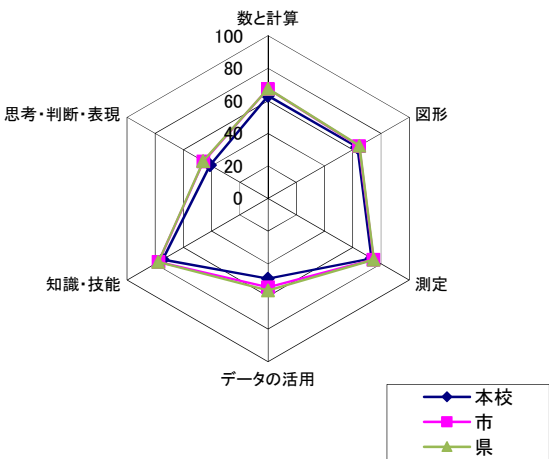
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ○「漢字の読み」や「指示する語句」に関する設問は、市の平均より低いが高い正答率である。 ●「漢字の書き」や「主語と述語の関係」「ローマ字の読み」に関する設問では、市の平均より低い。	・漢字の読み書きは、基礎基本となるものなので、朝の学習や家庭学習において、繰り返し練習をさせるとともに、ミニテストなどでこまめに定着状況を確認したり、学期末や学年末では、定着の強化を図る。 ・「ローマ字の読み」については、ローマ字ノートやプリントを使い、日常的に慣れ親しむことができるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ●「国語辞典の使い方」に関する設問では、市の平均正答率より低く課題が見られる。	・国語辞典の使い方の学習では、基本的な使い方を丁寧に確認しながらおさえるとともに、授業において機会を捉えて活用させることで、国語辞典の使用の日常化を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ●「漢字のへんやつくり」の設問では、市の正答率より低く、漢字がへんやつくりから構成されていることについての理解について課題が見られる。	・漢字のへんやつくりを意識して漢字練習に取り組みせたり、漢字辞典の活用の意欲付けを図ったりしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて低い。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉える」の設問では、市の平均とほぼ同じである。 ●「司会者の話し方の工夫を捉える」や「相手に伝えるように、自分の考えを理由を挙げながら話す」の設問では、市の平均より低い。	・話し手の工夫を捉えることはできているので、今後は、自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れ、理由を挙げながら相手に伝えるように話す機会も学習活動に取り入れていく。 ・話し合いをする場面では、自分の意見を発表したり、友達の意見と比べたりすることに加え、司会者の立場を経験させ、参加者の意見をまとめることもできるよう、機会を増やしていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○「指定された長さの文章で書く」や「自分の考えを明確にして書く」「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし書く」の設問では、市の正答率より高い。 ●「段落の役割についての理解」の設問では、市の正答率より低い。	・自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことはできているので、今後は、伝えたいことを文章にする機会を増やしたり、2段落以上の構成で文章を書く方法を重点的に指導したりしていく。 ・各教科の授業で、調べたことや自分の言葉でまとめるなどを文章化する活動を取り入れ、構成や段落・自分の考えを明確にすることをできるようにしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える」の設問では、市の平均正答率より低い。 ●「叙述を基に段落の内容を捉える」や「叙述を基に文と文とのつながりを捉える」「文章の要約を理解する」の設問では、市の平均正答率より低い。	・朝の読書の時間や「うち読」の時間を活かして、読書活動をより一層推進していき、読み取る力を身に付けさせていく。 ・国語の時間に、物語文では情景と心情の読み取りを丁寧に扱ったり、説明文では段落のつながりや構成を確認したり、文章の中のキーワードを考えさせながら要約がまとめられるよう、読み取りの手順をしっかりとおさえた学習を継続していく。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.1	67.3	67.4
	図形	63.2	64.5	64.7
	測定	73.3	74.7	74.9
	データの活用	49.1	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.7	77.6	77.8
	思考・判断・表現	41.2	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

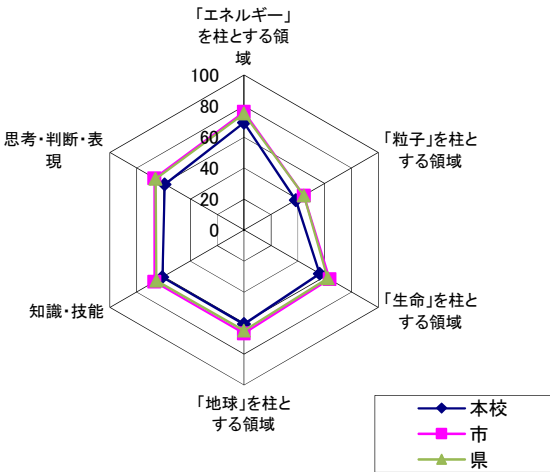
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均に比べて低い。 ○同分母の真分数＋真分数の計算では市の平均を上回っており、分数の意味を理解した上で、正確に問題を解くことができている。 ●万の単位や数の表し方、式の意味など、数学的事象の意味を理解することに課題が見られる。	・今後も教科書や計算ドリルを活用し、繰り返し計算問題に取り組むことで、基礎・基本的な内容の定着を幅広い分野で図っていく。 ・間違えた理由を明確にするために、間違い直しや復習の時間を確保し、内容の取りこぼしを防ぎ、定着を図る。
図形	平均正答率は、市の平均に比べてやや低い。 ○球の性質やコンパスの正しい使い方など、基礎的な知識が身に付いていることが伺える。 ●二等辺三角形の作図において市の平均を下回っており、コンパスの性質を利用し三角形を作図することに課題が見られる。	・今後も定規やコンパスの性質や使い方について継続的に指導し、操作活動を取り入れていくことで知識・技能の定着を図る。 ・実際に紙を操作しながら、図形の性質に着目できるようにし、コンパスの操作方法について理解を深めることができるようにする。
測定	平均正答率は、市の平均に比べてやや低い。 ○時間が経過する前の時刻を条件に合わせて求めることがよくできている。初期段階で模型時計や数直線を活用して時間の進み方を考えたことで、視覚的に時間の感覚を身に付けることができた成果であると考えられる。 ●身近な物の重さについて、およその見当をつけることに課題が見られる。	・今後も時計などの具体物を操作したり、図を用いて説明をしたりする活動を積極的に取り入れて、時間等の感覚を養っていく。 ・実際に具体物を使って、それぞれの単位に共通する接頭語や大きさの関係を表に整理し単位のしくみについて理解を深めることで、量感を養っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均に比べて低い。 ●2つの棒グラフで、1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取ることに課題が見られる。	・わかっていること、問われていることなどポイントになる言葉や数値に印をつけながら問題を読んだり、グラフを読み取るときに着目する点(単位や目盛り)に印を付けたりするなど、日ごろから問題の意味や問われている内容を理解しながら課題に取り組むようにする。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.2	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	38.6	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	56.3	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	60.7	66.6	64.9
観点	知識・技能	60.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	59.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「送風機を風が強い順に並べ替える」設問では、市の平均正答率より低い。 ●「実験結果から、電気が流れるつなぎ方を推測する」設問においても、市の平均正答率より低い。	・実験や観察の結果からの推測や考察の記述に関しては、自分の考えを言葉で表す力を育むために、参考となるキーワードを示す。また、常に共通点や差異点に着目させ、なぜそのような結果になったのか理由も合わせて記入する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び、選んだ理由を答える」設問では、市の平均正答率より低い。 ●「ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測する」設問においても、市の平均正答率より低い。	・予想、実験、結果、考察の手順の一つ一つを丁寧に言い、事象とその理由のつながりを意識した学習を継続していく。また考察において参考となるキーワードを示し、自分の言葉で記述することを練習していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「正しい草丈の測り方を選ぶ」設問においては、市の平均正答率とほぼ同じで、実際の観察を通して、正しい測り方がある程度身に付いていると考えられる。 ●「ホウセンカのようにすを観察した順に並べ替えたものを選ぶ」設問では、市の平均正答率より低い。 ●チョウやトンボ、カブトムシやクモに関する設問においても、市の平均正答率より低い。	・実際の飼育観察が難しい場合、映像資料を積極的に使用し、身近な植物や昆虫のからだのしくみや成長について児童の理解を深める。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「正午ごろの温度計のようすを選ぶ」設問では、市の平均正答率より高く、日なたと日かげの地面の温度変化をある程度理解していると言える。 ●「実験の記録から、かげの動くようすを推測する」設問では、市の平均正答率より低い。 ●「温度計の使い方を選ぶ」設問においても、市の平均正答率より低い。	・理科学的な現象や性質について「なぜ、どうして」という疑問や関心をもたせる学習を展開していくことで、主体的に問題解決に臨み、理解を深められるようにしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の肯定割合は、市の平均と比べて4.7ポイント高いことから、自主学習に前向きに取り組んでいる児童が多いと言えるが、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」や「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」と回答した児童の肯定割合は、市の平均と比べて10ポイント以上低く、自主学習の取り組み方が分からない児童も多いことがうかがえる。家庭学習の取り組み方のポイントを児童や保護者に伝達するなど、家庭と連携を図りながら児童が自主的に家庭学習に取り組めるように努めたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童の肯定的割合は、市の平均と比べて2.3ポイント高かった。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童の肯定的割合も、市の平均と比べて5.4ポイント高かったことから、授業の中で意図的に言語活動を取り入れ、主体的に学ぶ児童の育成に努めた成果が表れていると考えられる。今後も話し合いの場を積極的に設け、更に自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしたい。

○●「勉強していて、おもしろい、と思うことがある」と回答した児童の肯定的割合は、全体の8割以上を占めていることから、学習意欲が高い児童が多いことがうかがえるが、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活で役に立つ」や「次の教科(国語・算数・社会)などの学習は、しょう来のために大切だ」と回答した児童の肯定的割合は、市の平均よりも低いことから、学習したことが将来自分のためになると考えていない児童が多いことがうかがえる。授業を行う際に、学習内容と日常生活との関連を図っていくとともに、学校生活の様々な場面で、学習内容との関わりや活用方法をより具体的に示していきたい。

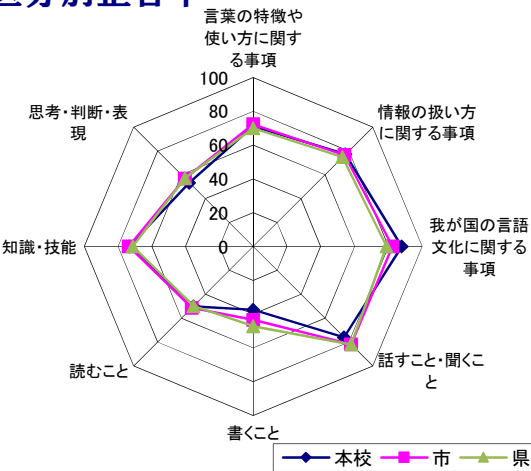
○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と回答した児童の肯定的割合は、全体の9割以上を占めていることから、努力して得られる達成感が積み重なってきていると考えられる。今後も、スモール・ステップで適切な目標を設定して、一人一人が成功体験や達成感を積み重ねられるようにしたい。

○●学校生活では、「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」と回答した児童の肯定的割合は、全体の8割以上を占めていることから、責任感が強い児童が多いことがうかがえるが、「自分はクラスの役に立っていると思う」と回答した児童の肯定的割合は市の平均と比べて10ポイント以上低く、クラスに貢献する充実感を得られていない児童が多いことがうかがえる。一人一人の頑張りを称え合う雰囲気づくりに努めたい。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.2	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	77.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	87.9	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	76.1	81.9	82.0
	書くこと	37.5	43.5	47.2
	読むこと	50.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	73.3	73.6	71.3
	思考・判断・表現	53.4	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

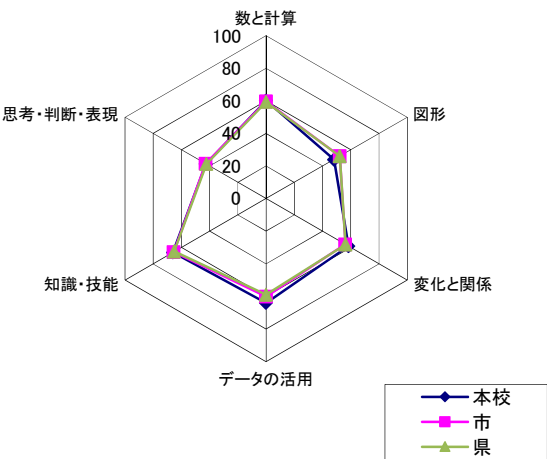
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○漢字の読み書きに関する問題については、設問により正答率にばらつきがあるが、高い正答率であり、定着していると考ええる。 ●文章中における修飾と被修飾の関係を捉えることに課題が見られる。	・今後も、家庭学習や朝の学習の時間などを活用して漢字練習やスキルの学習を行い、小テストで確認をしながら基礎的な漢字の読み書きの力を定着させていく。 ・各単元の学習の中で、主語や述語、修飾語などを指導する機会を意図的に作り、児童が文章を書いたり読み取ったりする際も繰り返し指導するよう努める。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○漢字辞典で調べる場合について、適するものを選ぶことができ、漢字辞典の使い方を正確に理解していると考ええる。	・授業中や家庭学習内で漢字辞典を活用する機会を増やし、さらに正確に漢字辞典を使うことができるように定着させていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文を読み適切なことわざを選ぶことができ、ことわざの意味をよく理解している。	・今後もことわざや慣用句など、我が国の言語文化に触れる機会を作り、身に付くよう働きかけていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すように表現することができている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり、司会の役割を果たしながら話し合い共通した意見に着目して考えをまとめたりすることに課題が見られる。	・朝のスピーチや総合の発表のときなどに、聞き手が質問したり感想を伝えたりする活動を継続し、相手の話を真剣に聞き、要点を捉えることができるようにする。 ・話し合い活動を多く取り入れ、司会役となって話し合いを進行したりまとめたりする体験を重ねることで、話を聞いて相手の意図を組むことができる力を付けていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○アンケート結果を読み、自分の考えを指定された長さで文章を書くことができている。 ●文章をしっかりと読み取り、内容の中心を明確にして、事実と自分の考えを書くことに課題が見られる。	・段落構成について復習したり、事実に対する自分の考えを書く学習を意図的に取り入れたりして、伝えたいことを明確にできるようにする。 ・ペアやグループ学習の中で、友達の書き方のよさを自分の文章表現に生かすことができるように支援する。 ・記述が苦手な児童には個別に対応して、適切な文章表現について指導及び支援をする。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○物語での登場人物の性格や気持ちの変化に関することを読み取ることができている。朝の読書や家読の推進の効果と思われる。 ●説明文の叙述を基に文章の内容を捉えたり、情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見付けて要約したりすることに課題が見られる。	・物語や説明文を読み取るときに、文章の要点となるキーワードを押さえることを学級全体で行うなどして、中心となる事柄や場面の様子を読み取れるようにする。 ・朝の読書や図書館利用の時間を活用し、読書活動をより一層推進することで、叙述をもとに内容を捉えられるように支援していく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.2	59.7	59.2
	図形	48.0	52.1	52.1
	変化と関係	58.3	56.1	56.3
	データの活用	64.0	60.1	58.9
観点	知識・技能	66.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	42.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

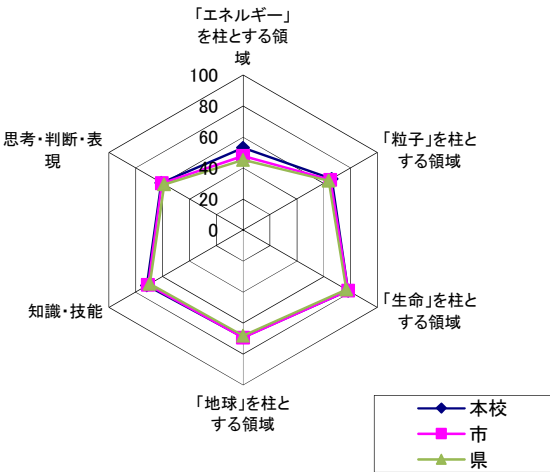
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○概数についてよく理解し、目的に応じて正しく見積もることができている。 ●小数第一位÷整数＝小数第一位の計算問題では、割り算の計算の仕方を理解できておらず、課題が見られる。	・小数の割り算については、計算ドリルやプリント等を用いて反復演習を行い、知識の定着を図るようにする。また、割り算の計算の仕方を理解していても、商に小数点を書き忘れてしまうこともあったので、確かめ算を行うよう指導し、正確な計算ができるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○コンパスや分度器を用いて、ひし形を正確に作図することはできている。作図の基本的な技能を身に付けていると考えられる。 ●作図以外の問題はほぼ市の平均を下回っている。その中でも特に三角定規を利用して正しい角度を選ぶことに課題が見られる。	・図形に関する学習では、操作活動を数多く取り入れることで、図形の定義についての理解をより確実なものにしていく。 ・複合図形の学習では、面積の求め方について、友達の考えを共有する時間を十分に確保して、考えを広げられるようにする。 ・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○数量の関係を捉え、正しく表された図を選んだり、2つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったかを考えたりすることはできている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることはよくできているが、言葉や数を使って説明することに課題が見られる。	・ペアや小グループで互いの説明を聞き合ったり、クラス全体の前で自分の考えを発表したりするなど、授業中に、自分の考えを説明したり、発表したりする場を多く設定し、自分の考えを言葉や数を使って表現することに慣れていくようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取ることはできている。 ●二次元表の読み取りについては、課題が見られる。	・たくさんの二次元表の問題を用いて復習するとともに、実生活における様々なデータを二次元表に書き表す活動を取り入れ、二次元表の見方についての理解を確かなものにしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	53.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	66.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	78.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	69.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	71.8	70.8	69.5
	思考・判断・表現	60.9	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○乾電池の並列つなぎの名前や電流の強さの特徴を理解することはできている。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向きを、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているか問う問題の正答率が市の平均よりも低く、課題が見られる。	・選択式や短答式の問題形式の問題はよくできているので、記述式の正答率を高めるために、実験後に理解できたことをまとめるときに自分の言葉や、教科書にあるキーワードを使ってまとめさせる活動を増やし、表現力を高められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○温度の上昇・下降によって体積がどう変化するかについて選択する問題はよくできている。物質ごとの特徴を捉え、応用することができている。授業での実験の結果を受けてしっかりと考察している成果であると考えられる。 ●物の温まり方について、水の底を温めたときにどこからどのように温まるか選択する問題について課題が見られる。	・今後も実験後にしっかりと考察する時間を確保し、結果から分かることを自分で考えさせる活動を大切にし、思考力を高められるような指導を継続していきたい。 ・実験を生活の場面に置き換えて考えさせるなど、授業の中で生活と結び付ける場面を設定するように心がけて指導していきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同じである。 ○関節の名称について短答する問題はよくできている。人体の関節について理解し、基礎的な知識が身に付いていると考えられる。 ●腕を曲げたときの筋肉の様子の理解に課題が見られる。	・基礎的な問題については正答率が良いため、引き続き基礎基本を丁寧に指導していく。 ・腕の屈伸運動時の筋肉の様子の理解については、映像資料や模型を用いたり、実際に簡単な模型を作らせたりすることで、より深く理解できるように指導をする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○時間経過につれて月や星の動きを選択して答える問題はよくできている。時間とともに方角や形がどう変化していくか捉えることができていると考えられる。 ●方位磁針の使い方について課題が見られる。 ●水の流れと地面の傾きについての理解に課題が見られる。	・授業内でICTを効果的に活用して指導するだけでなく、家庭でも月や星の観察を行うなど、学校では見られないものを家庭と協力して学ぶことなど引き続き指導していく。 ・方位磁針の使い方は小学校3年生で学ぶため、使い方を思い出せなかったのではないかと推察される。そのため、既習事項について単元に関わりがある際には復習を行うなど、機会を見て繰り返し触れるように指導していく。 ・授業の中で実験後に考察をする時間を確保し、疑問に対して論理的に自分の考えを書くことを指導していきたい。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の肯定割合は75.7%で市を14.6ポイント、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定割合は95.5%で市を0.4ポイントそれぞれ上回った。ドリル学習のほか、クロームブックを活用した宿題を出してきた成果であると考えられる。今後も、児童の実態に応じた宿題を提供していきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合は90.9%で市を6.2ポイント、「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」の肯定割合は93.9%で市を7.9ポイント、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定割合は69.7%で市を5.1ポイント上回った。学習のねらいを明確にして探究的学習を取り入れた授業づくりを進めてきた成果が表れている。これからも、子供たちから生まれる問いを大切にしたい授業を展開していきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は86.4%で市を10.4ポイント、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定割合は90.9%で市を6.6ポイント、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定割合は89.4%で市を6.9ポイント上回った。意欲的に発言する児童が多いので、今後も発表する機会を確保した授業を展開できるよう努めていく。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定割合は87.9%で市を5.0ポイント、「将来の夢や目標をもっている」の肯定割合は97.0%で市を8.0ポイント上回った。教育相談等で子供たち一人一人のよさを認め、励ましてきた成果が表れている。今後も、夢や目標に向かって子供たちがよさを伸ばしていけるよう、指導の充実を図りたい。

○●「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の設問で1時間以上と回答した割合は48.5%で市を2.8ポイント下回った。一方、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問で1時間以上と回答した割合は59.2%で市を7.7ポイント上回った。休みの日の学習時間を維持しつつ、平日の学習時間の向上が図れるよう指導していく。

●家庭学習については、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定割合は40.9%で市を9.5ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は54.5%で市を6.4ポイント、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定割合は54.6%で市を8.6ポイント下回った。宿題は多くの児童が忘れずに取り組んでいるが、授業の予習・復習など自主学習への取組が十分ではない。家庭学習に意欲的に取り組んでいる児童のノートを紹介するなどして、宿題以外の家庭学習が充実するよう、啓発していく。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定割合は75.8%で市を6.3ポイント下回った。社会で起こっている出来事や時事に関する話題を取り上げるなどして、興味を高めていきたい。

宇都宮市立陽南小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	・少人数、習熟度別など、単元や活動に応じて、TTを効果的に活用した個に応じた指導を行う。 ・朝の学習の時間にAI型学習ドリルの活用も含めた国語・算数の学習を行ったり、授業において漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったりするなど、学習内容の確実な定着を図る。	・漢字の読み書きや計算に関して、定着に個人差が見られる。 ・4年、5年共に、国語の書くこと・読むことにおいて課題が見られる。特に、2段落構成で文章を書くなど、指定された長さで自分の考えを書くことにおいて、課題が見られる児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4、5年とも「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と考えている児童が多い傾向にある。	児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	・自分の考えを書く学習を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字やかなの正しい表記や文法なども併せて指導する。 ・少人数での話し合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。